

参 考 資 料

- 1 整備の趣旨・目的
- 2 施設概要
- 3 沿革
- 4 組織
- 5 平成 27 年度人と防災未来センター特別会計収支予算書
- 6 資料室のあらまし
 - (1) 資料室の概要
 - (2) 震災資料の収集・保存事業の経緯
 - (3) 資料室受け入れ資料点数等
 - (4) 震災資料収集・公開の流れと公開形態別資料点数
 - (5) 資料室のあゆみ
- 7 新聞記事がとりあげた人と防災未来センター
- 8 研修カリキュラム表
- 9 センター刊行物

参考資料 1

整備の趣旨・目的

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターは、わが国で初めて社会経済的な諸機能が高度に集積する大都市を直撃した直下型地震である阪神・淡路大震災の教訓を後世に残し、震災とその復興過程から得られた知識や知恵を世界に情報発信することによって、世界の災害対策に生かそうという「阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想」がその開設の端緒となっている。

震災があった1995年の10月、政府の「阪神・淡路復興委員会」が、復興特定事業のうち極めて意義のあるものとして阪神・淡路大震災記念プロジェクトを提言。そして、国、県、神戸市、民間で同プロジェクト検討委員会が設置され、その後に設立された（財）阪神・淡路大震災記念協会（理事長＝石原信雄・地方自治研究機構理事長（設立当時））で、学者、民間団体代表、行政代表で構成する同センター基本構想検討委員会を設置、1999年5月26日に基本構想（基本的考え方）が公表された。さらに6月には、有識者、行政などによる「阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会」（会長＝新野幸次郎・神戸都市問題研究所長）を設置し、「阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想」を策定した。

同年12月、国の1999年度第2次補正予算で、メモリアルセンター施設整備費約60億円の2分の1にあたる約30億円が国庫補助金として予算措置され、2000年度以降の各年度においても、運営費補助が計上されることとなった。

さらに、政府の「阪神・淡路復興対策本部」の最後の会合が、翌2000年2月22日に開かれ、同センターの整備事業が復興特定事業に追加選定された。

「阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想（基本的考え方）」によると、同センター構想は「人類史上初めての高齢社会下の大都市直下型地震による大災害であった阪神・淡路大震災により、我々は生命の尊厳やともに生きることの重要性、近代都市の脆弱性など、人類が営々と築き上げてきた20世紀文明に対する反省と教訓を得た」との認識を基に、「はからずも露呈した近代都市や近代文明の災害に対する脆弱さからは、『人と自然との共生』が、また復興過程でコミュニティやボランティアが果たした役割の大きさからは『人と人との共生』が、それぞれ重要な概念として認識されることになった。わが国は地震列島であり、将来、再び大地震が都市を襲う可能性を多分に有しており、震災から得られた反省と教訓を生かし、世界中で今後起こり得る同様の災害の防災と、それからの復旧・復興に貢献する義務がある。阪神・淡路地域こそ、世界における震災復興のフロンティアでありモデルであるとの自覚のもと、来るべき21世紀の世界に貢献し得る役割を担おう」との趣旨でまとめられた。

2000年度には、「展示・交流検討委員会」、「人材育成等検討委員会」を設置し、展示内容や、調査研究活動、人材育成等のソフトについて、各界の代表者等からの意見等をふまえて具体化に向けた検討を精力的に重ねていった。

さらに、「メモリアルセンターフォーラム」等の開催を通じて、一般県民等からの期待や意見についても把握し、委員会等での検討に供した。

そして、2001年1月に一期施設「防災未来館」の建築工事に着手し、翌2002年3月末に施設が完成し、4月21日に皇太子同妃両殿下をお迎えして、開館記念式典が執り行われ、4月27日から一般公開された。

さらに、2001年11月には二期施設「ひと未来館」の建築工事に着手し、2003年3月末



に施設が完成した。4月24日には、開館記念式典が防災担当大臣等のご参列のもと行われるとともに、翌25日には、「いのちの尊さと、ともに生きることの素晴らしさーひと未来館の展示がめざすものー」をテーマとした鼎談など開館記念イベントが開催された。

4月26日から一般に公開され、ここに阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターはグランドオープンに至った。

震災から復興が進むなか、防災未来館の展示については、センター開設後の時間経過に伴う復興への新たな課題と情報の追記、防災・減災に関する情報発信の強化等が必要となったため、2005年9月に学識者等で構成する「人と防災未来センター展示検討委員会」を設置し、展示更新内容について検討を重ね、2006年7月に「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター展示検討報告書」をとりまとめた。

2007年には、その内容を踏まえて、一期施設「防災未来館」において展示のリニューアルを実施し、2008年1月9日から一般に公開した。

また、「ひと未来館」においては、阪神・淡路大震災の教訓としての「いのちの尊さ」や「共に生きることの大切さ」を伝える展示を行ってきたが、近年、体験型の環境学習機会や学習施設が充実されてきたことに加え、世界的に多発する大規模自然災害への対応が求められていること等から、2009年3月末をもってひと未来館としての展示を休止し、風水害に関する防災展示を充実する等の改修を経て、2010年1月8日から再オープンした。併せて、「防災未来館」を「西館」、また「ひと未来館」を「東館」と館の名称を変更したほか、入館料金体系を見直し、両館の一体的な展示運営を行っている。

また、震災20年を機に、震災の経験と教訓の継承、防災・減災情報の発信の拠点施設としてのシンボル性を高めるために、2015年3月27日から西館（北面、西面）で原則毎週金・土曜日にライトアップを始めた。

さらに平成27年10月23日からは、西館（東面、南面）のライトアップを追加して、西館4面で毎日ライトアップを行っている。

参考資料 2

施設概要

1 施設概要

区 分	西館（旧防災未来館）	東館（旧ひと未来館）
施設概要	鉄骨造（制震構造） 地上 7 階、地下 1 階、塔屋 1 階 建面積：1,887.80 m ² 延面積：8,557.69 m ²	鉄骨造（制震構造） 地上 7 階、地下 1 階、塔屋 1 階 建面積：2,059.97 m ² 延面積：10,197.08 m ²
施設整備費	約 60 億円（国 1/2、県 1/2）	約 61 億円（県 10/10）
整備スケジュール	平成 12 年 3 月～ 基本設計及び実施設計 平成 13 年 1 月 建築工事着工 平成 14 年 3 月 完成 4 月 27 日オープン 平成 19 年 12 月 29 日 展示改修のため休止 平成 20 年 1 月 9 日 リニューアルオープン	平成 12 年 9 月～ 基本設計及び実施設計 平成 13 年 11 月 建築工事着工 平成 15 年 3 月 完成 4 月 26 日オープン 平成 21 年 4 月 1 日 展示運営を休止 平成 22 年 1 月 8 日 再オープン

2 建物内概念図（平成 28 年 3 月 31 日現在）

西 館		東 館	
	機械室	収蔵庫	機 械 室
7F			
6F	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 事業部（事業課・普及課） 研究部		（公財）ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
5F	事業部（運営課） 資料室		アジア防災センター 国際エメックスセンター 国際防災復興協力機構 国連国際防災戦略事務局駐日事務所 国連人道問題調整事務所神戸事務所 瀬戸内海環境保全協会 地球環境戦略研究機関関西研究センター
4F	展示部門（震災追体験フロア）		アジア太平洋地球変動研究ネットワークセンター 兵庫県立大学防災教育研究センター
3F	展示部門（震災の記憶フロア）		展示部門（水と減災について学ぶフロア） 多目的スペース
2F	展示部門 （防災・減災体験フロア）		通路
1F	総合案内、ロビー、ガイダンスルーム 等		レストラン・ ミュージアム ショップ
			展示部門 （こころのシアター）

参考資料 3

沿革

< 1999 年 (平成 11 年) >

- 2.17 (財) 阪神・淡路大震災記念協会に「阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想検討委員会」を設置
- 5.26 阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想のとりまとめ・公表
- 6. 2 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会の設立
- 6.12 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会専門委員会の開催
- 6.28 阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想のとりまとめ・公表
- 11.12 国土庁長官が記者会見で「メモリアルセンターの施設整備費について 11 年度補正において所要の補助金を計上する。運営費についても平成 12 年度以降の各年度において所要の補助金を計上する」旨発表
- 12. 9 国の平成 11 年度第 2 次補正予算 (11 月補正) が成立。メモリアルセンター施設整備費 (約 60 億円)、うち国庫補助金 (約 30 億円) が予算措置
- 12.24 メモリアルセンター運営費補助金 (12 年度分 63 百万円) が盛り込まれた国の平成 12 年度当初予算が閣議決定

< 2000 年 (平成 12 年) >

- 1.29 「阪神・淡路大震災メモリアルセンター設計プロポーザル選考委員会」の設置。第 1 回委員会を開催し、選考基準、プロポーザル作成要領を検討
- 2.22 「阪神・淡路大震災復興対策本部」最終会合でセンター整備事業が復興特定事業に追加選定
- 2.26 第 2 回選考委員会において、最適設計者を選定
- 3.22 1 期設計委託契約締結
- 5. 8 第 1 回「展示・交流検討委員会」開催
- 5.19 第 2 回「展示・交流検討委員会」開催
- 5.26 第 1 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 5.27 第 2 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 6.17 第 3 回「展示・交流検討委員会」開催
- 8.28 第 4 回「展示・交流検討委員会」開催
- 9.18 ヘルスケアパーク構想のうち県立のミュージアム部分をメモリアルセンター 2 期として整備することを決定
- 9.29 2 期設計委託契約締結
- 10.14 第 1 回メモリアルセンターフォーラム開催
- 10.27 第 5 回「展示・交流検討委員会」開催
- 12.12 第 3 回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 12.27 第 1 回「人材育成等検討委員会」開催

< 2001 年 (平成 13 年) >

- 1. 6 1 期建築工事安全祈願祭開催 (工事着工)
- 1.15 センター長に河田恵昭京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授が内定、発表

- 2.19 第6回「展示・交流検討委員会」開催
- 4.28 第7回「展示・交流検討委員会」開催
- 10.10 2期建築工事発注
- 10.30 第1回人材育成カリキュラム等検討委員会開催
- 10.31 第1回名称募集審査委員会開催
- 11. 9 2期建築工事安全祈願祭開催
- 11.27 第2回名称募集審査委員会開催
- 12. 4 1期展示工事安全祈願祭開催
- 12.11 第1回展示監修者会議開催
- 12.19 第2回人材育成カリキュラム等検討委員会開催
- 12.19 2期展示製作委託発注

< 2002 年 (平成 14 年) >

- 1. 7 正式名称を「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」に決定、発表
- 1.21 第2回展示監修者会議開催
- 3.31 1期施設「防災未来館」完成
- 4.21 開設記念式典開催
- 4.23 開設記念シンポジウム開催
- 4.27 「防災未来館」展示一般公開

< 2003 年 (平成 15 年) >

- 3.31 2期施設「ひと未来館」完成
- 4.24 開設記念式典開催
- 4.25 開設記念イベント開催
- 4.26 「ひと未来館」展示一般公開

< 2007 年 (平成 19 年) >

- 12.29 「防災未来館」展示改修のため休止

< 2008 年 (平成 20 年) >

- 1. 8 「防災未来館」展示リニューアル記念式典
- 1. 9 「防災未来館」展示リニューアルオープン (一般公開)

< 2009 年 (平成 21 年) >

- 4. 1 「ひと未来館」展示運営を休止

< 2010 年 (平成 22 年) >

- 1. 8 「ひと未来館」展示再オープン (一般公開)
併せて、館の名称について「防災未来館」を「西館」、「ひと未来館」を「東館」に変更、また入館料金体系を変更

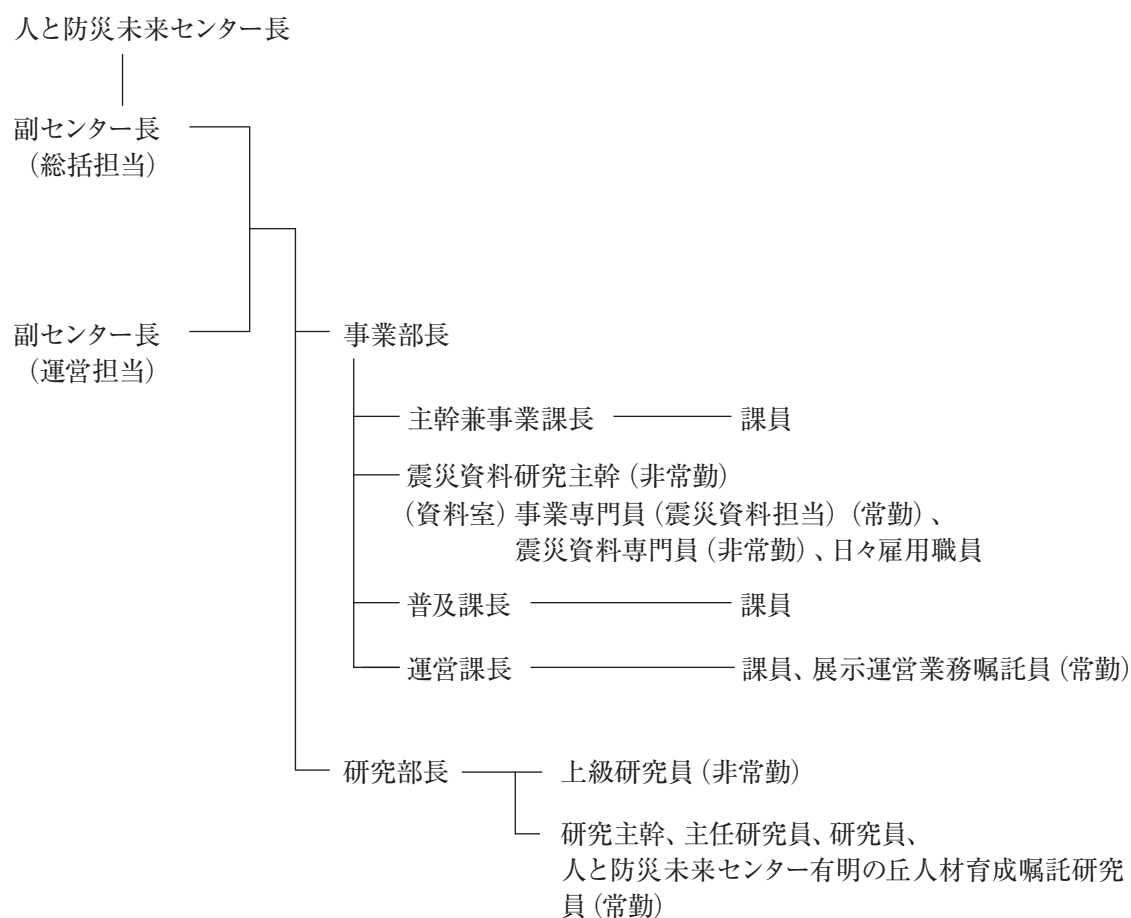
< 2015 年 (平成 27 年) >

- 3.27 西館 (北面、西面) で夜間ライトアップ開始 (原則金、土曜日)
- 10.23 西館 (東面、南面) を追加し、西館4面でライトアップを実施 (毎日)

参考資料4

組織

(平成28年3月31日現在)



職員数

(単位：人)

所 属	職 員	非常勤職員	日々雇用職員	計
センター長・副センター長	2	1		3
事業部				
事業課	5	5	1	11
普及課	2	0	0	2
運営課	3	0	0	3
研究部	11	0	0	11
計	23	6	1	30

- ・ 事業部長、事業専門員（震災資料担当）は事業課職員に含む。
- ・ 震災資料研究主幹、震災資料専門員は事業課非常勤職員に含む。
- ・ 展示運営業務嘱託員は運営課職員に含む。
- ・ 研究部には、人と防災未来センター有明の丘人材育成嘱託研究員を含み、上級研究員、研究調査員は除く。
- ・ ひょうご震災記念 21 世紀研究機構管理部本務職員は除く。

参考資料5

平成 27 年度人と防災未来センター特別会計収支予算書

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

(単位：千円)

科 目	予算額			備 考
	27 年度当初	26 年度当初	増 減	
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(1) 事業収入	83,915	84,122	△ 207	
① 入館料収入	(50,707)	(50,274)	433	
② 駐車場等収入	(33,208)	(33,848)	△ 640	
(2) 補助金等収入	708,780	738,393	△ 29,613	
① 指定管理料収入	(554,714)	(558,534)	(△ 3,820)	人件費の減
② 県交付金収入	(97,555)	(122,455)	(△ 24,900)	震災 20 年関連事業終了による減
③ 補助金等収入	(53,384)	(54,186)	(△ 802)	
④ 国等受託収入	(3,127)	(3,218)	(△ 91)	
(3) 雑収入	31,317	30,102	1,215	
① 受取利息	(1)	(1)	(0)	
② 雑収入	(31,316)	(30,101)	(1,215)	テナント光熱水費の増
事業活動収入計	824,012	852,617	△ 28,605	
2 事業活動支出				
(1) 事業費支出	826,512	852,617	△ 26,105	
① 施設運営等事業費支出	(507,481)	(510,874)	(△ 3,393)	人件費の減
② 研究調査等事業費支出	(153,590)	(153,590)	(0)	
③ センター利用事業費支出	(62,259)	(61,700)	(559)	
④ 研究受託等事業費支出	(5,627)	(3,998)	(1,629)	受託事業（河川研究センター）等の増
⑤ ひょうご安全の日関連事業費支出	(97,555)	(122,455)	(△ 24,900)	震災 20 年関連事業終了による減
事業活動支出計	826,512	852,617	△ 26,105	
事業活動収支差額	△ 2,500	0	△ 2,500	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2 投資活動支出				
(1) 特定資産取得支出	1,000	3,169	△ 2,169	
① 退職給付引当資産取得支出	(1,000)	(3,169)	(△ 2,169)	
投資活動支出計	1,000	3,169	△ 2,169	
投資活動収支差額	△ 1,000	△ 3,169	2,169	
当期収支差額	△ 3,500	△ 3,169	△ 331	
前期繰越収支差額	13,047	27,108	△ 14,061	
次期繰越収支差額	9,547	23,939	△ 14,392	

資料室の概要

資料室では、阪神・淡路大震災に関する一次資料（紙、モノ、写真、映像・音声）及び災害や防災に関する二次資料（図書、ビデオ、DVD など）を検索・閲覧できる。

1) 資料室の体制

平成 27 年度は震災資料研究主幹（牧紀男・京都大学防災研究所教授）のもと、震災資料（実物資料である一次資料、図書やビデオなどの二次資料）を担当する震災資料専門員 4 名により資料室の業務運営を行った。

2) 資料室の主な業務

- ①震災資料の調査、収集、整理、保存
- ②震災・防災およびその関連領域に関するレファレンス業務
- ③震災一次資料の閲覧申請、館外貸出等についての対応
- ④震災学習、防災教育に関するビデオ・DVD の貸出し
- ⑤震災、防災に関する情報発信
- ⑥他機関との連携

3) 資料室における資料の閲覧・複写および利用者サービス

①資料の閲覧・複写

一次資料は、適切な温度・湿度のもとで管理する必要があるため、収蔵庫で保存している。来室者が閲覧を希望する場合、申請書類の提出に基づき資料専門員が出納する。

二次資料の図書、雑誌、ビデオ、CD-ROM、DVD などは開架式で自由に閲覧でき、資料室内コピー機で複写もできる（有料）。

②利用者サービス

震災資料の受け入れ、資料の貸出しに関する相談を受け付けているほか、震災や防災に関する相談に対して、参考資料の提供等も行っている。

4) 資料室の設備

①閲覧スペース

閲覧席約 10 席、ソファ

②震災資料検索用パソコン 2 台

- ・一次資料、二次資料のデータベース検索

一次資料については調査先に関するデータ（所在地、氏名など）やキーワードで、また、二次資料については書名、著者名、出版社名やキーワードで検索する。

資料の検索はセンターホームページ（<http://lib.dri.ne.jp/search/index.asp>）でも可能である。

- ・神戸新聞記事データベース検索

阪神・淡路大震災以降の神戸新聞の記事（地方版を含む）の見出し・本文が閲覧できる。キーワード及び発行年月日で検索できる。



震災資料検索用パソコン

③資料閲覧用パソコン 4台

映像・音声資料の視聴や、以下の閲覧ができる。

- ・デジタル版 街の復興カルテ／3D マイホームデザイナー
被災地の復興の1年ごとの経過をパソコン上で閲覧できる。パソコンに自宅の構造や立地状況を入力することで、簡単に耐震診断ができる。
- ・阪神・淡路大震災 犠牲者の記録
震災犠牲者聞き語り調査会が遺族への聞き取り結果をまとめた「犠牲者の記録」の一部を公開している。震災犠牲者ひとり一人の記録をPDFファイルで閲覧できる。

④映像上映モニター

所蔵する映像資料の中から、震災の記録映像等を上映している。

『震災復興のあゆみ～あの時と今～』

野田北ふるさとネット・野田北部を記録する会制作、青池憲司監督

『野田北部鷹取の人びと』

野田北部を記録する会制作

『市民が撮った震災映像アーカイブ 市民編』

神戸市広報課職員 松崎太亮 撮影

『フェニックスプラザミニシアター展示映像（英語版）』

阪神・淡路大震災復興支援館ーフェニックスプラザー 編

⑤ぼうさいみらい子ども文庫

平成22年1月、阪神・淡路大震災15年にあたり、次代を担う子どもたちに震災の経験と教訓を伝えるため、国際ソロプチミスト神戸からの寄贈により、資料室内に開設した。主に児童向けの図書、ビデオ・DVDの閲覧ほか、防災を学ぶゲームも体験できる。図書やDVD、ゲーム等の資料は、現在も収集を継続している。

○配架資料等（平成28年3月末現在）

- ・図書（絵本） 約310点
- ・ビデオ等 約30点
- ・防災を学ぶゲーム、紙芝居、CD等



ぼうさいみらい子ども文庫

5) 資料室における配布物

震災及び防災について発信するため、次の資料などを配布している。

- ・ 資料室パンフレット
- ・ 資料室ニュース
(センターホームページからダウンロード可能
http://www.dri.ne.jp/material/material_news)
- ・ 災害学習ノート
- ・ 震災資料集 vol.1 『阪神・淡路大震災における住まいの再建 論説と資料』
- ・ 震災資料集 vol.2 『所蔵資料図録—暮らしのなかの震災資料—』
(センターホームページからダウンロード可能
http://www.dri.ne.jp/material/material_books)
- ・ 防災関連イベントのチラシ等
- ・ 『阪神・淡路大震災復興誌』(財) 21 世紀ひようご創造協会、(財) 阪神・淡路大震災記念協会
(センターホームページから全 10 巻がダウンロード可能
http://www.dri.ne.jp/material/material_hanshinawaji)
- ・ 『「震災資料の分類・公開の基準研究会」報告書 ～阪神・淡路大震災関連資料の活用に向けて～』(財) 阪神・淡路大震災記念協会
(センターホームページからダウンロード可能
http://www.dri.ne.jp/material/material_reports)

震災資料の収集・保存事業の経緯

概略

阪神・淡路大震災の被害を伝える資料の収集は、平成7年10月から、兵庫県の委託を受けた(財)21世紀ひようご創造協会が「震災とその復興に関する資料・記録の収集・保存事業」として始めた。

平成10年4月からは、(財)阪神・淡路大震災記念協会が引き継いで収集事業を続け、公開基準の検討を行った。

平成12年6月からは、兵庫県の「緊急地域雇用特別交付金事業」を用いた大規模な震災資料の調査事業が、2年にわたって行われた。延べ約450人の調査員が各種NPO等団体、復興公営住宅、学校などを訪ね、チラシ・ノート・写真・避難所が使用された物など、生の資料を集めた。(財)21世紀ひようご創造協会や(財)阪神・淡路大震災記念協会が収集したものを含め、平成13年度末までに約16万点の資料が収集された。

平成14年4月に開館した人と防災未来センターでは、こうして収集された資料を引き継ぎ、資料室において、一次資料として保存、公開、活用している。

年表

- 平成 7年 3月 阪神大震災地元NGO救援連絡会議に「震災・活動記録室」を設置。
- 5月 神戸大学附属図書館震災文庫が本格的に震災資料収集活動を開始。
兵庫県立図書館、神戸市立図書館でも、一次資料を含む震災資料の収集を開始。
自治体、図書館、史料保存団体の有志、歴史研究者などによる相互協力活動の開始。
- 10月 (財)21世紀ひようご創造協会が兵庫県の委託を受けて震災資料収集事業を開始。
- 平成 8年12月 非常勤嘱託(3名)を雇用。旧避難所等を中心に調査。
- 平成10年 4月 (財)阪神・淡路大震災記念協会が収集事業を引き継ぐ。事業の一つとして「阪神・淡路大震災に係る既存情報の収集整理・保存」が位置づけられる。
仮設住宅、ボランティアグループを中心に一次資料の調査。
- 6月 「震災資料の分類・公開の基準研究会」設置(～平成12年度末)。
- 平成11年 8月 「公開基準検討部会」設置(～平成12年度末)。
- 平成12年 6月 「緊急地域雇用特別交付金事業」による大規模調査を実施(～平成13年度末)。
- 平成13年 4月 「震災資料の保存・利用、及び活用方策研究会」及び検討部会設置(～平成13年度末)。
- 平成14年 4月 阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」資料室が事業を引き継ぐ。
- 平成16年 3月 「震災資料の公開等に関する検討委員会」設置(～平成16年度末)。

資料室受け入れ資料点数等

1 人と防災未来センター資料室所蔵資料の状況（平成 28 年 3 月末現在）

部 門	件数名		総 数	
二次資料	資料点数 (購入含む)	図 書	13,272	
		雑 誌	19,098	
		チラシ	1,777	
		映 像	934	
		その他	5,106	
		総 数	40,187	
	バーコード登録件数		12,603	
	購 入 件 数		3,436	
	目次入力済件数		23,664	
	依頼状発送件数		※ 1	
	礼 状 発 送 件 数		※ 16	
一次資料	入力済 み件数	ビデオ貸出本数（件数）		※ 265 本
				※ 159 件
		調 査 先 総 数		17,530
		資料提供者件数		3,786
資料点数		映像・音声（点数）	2,064	
		紙（点数）	178,951	
		モノ（点数）	1,423	
		写真（点数）	6,078	
	127,539 枚			
総点数		188,516		
資料提供件数（データ未入力を含む）		※ 5 件		
調査回数（データ未入力を含む）		※ 7 回		
資料室全般	相談業務件数	全 体 数	※ 68	
		解 決	※ 68	
		未 解 決	※ 0	
		入力件数	2,158	
	資料閲覧申請件数	申請件数	※ 22	
		申請資料総点数	※ 1,322	
	資料室利用者数		※ 4,544 人	

- ・ ※ 印は平成 27 年度の総計
- ・ 無印は資料室開室後の累計（平成 28 年 3 月末現在の総数）

2 平成 27 年度資料室受け入れ二次資料点数

区 分	平成 27 年度 資料室受け入れ二次資料点数	平成 27 年度末現在 二次資料点数 (累計)
図 書	132	13,272
雑 誌	165	19,098
チ ラ シ	65	1,777
映 像	9	934
そ の 他	43	5,106
総 数	414	40,187

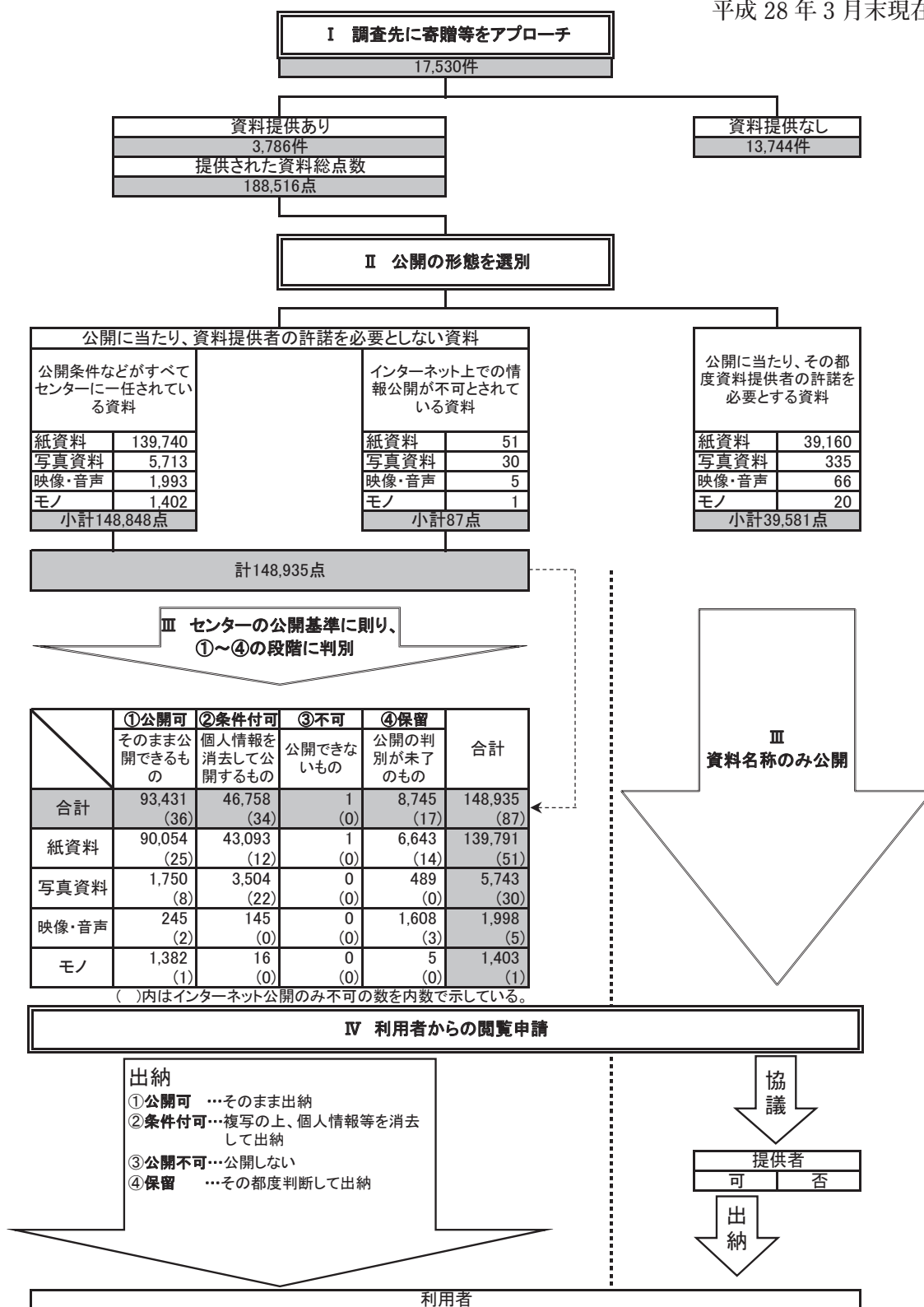
3 平成 27 年度資料室利用者数

(単位：人)

月	人 数
4 月	301
5 月	317
6 月	279
7 月	470
8 月	852
9 月	367
10 月	395
11 月	370
12 月	289
1 月	393
2 月	255
3 月	256
合計	4,544

震災資料収集・公開の流れと公開形態別資料点数

平成 28 年 3 月末現在



参考資料 6 - (5)

資料室のあゆみ

	2002 (H14)	2003 (H15)	2004 (H16)	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)
トピックス	■人と防災未来センター開設 ■防災未来館(西館)オープン ■資料室2Fに開室 ■資料室ニュース発行開始 ■二次資料のインターネット検索開始	■ひと未来館(東館)オープン ■こどものほんコーナー設置	■「被災度別建物分布状況図」を資料室内で公開 ■阪神・淡路大震災“わたしたちの復興”プロジェクト開始 ■震災10年対応記録収集事業	■「犠牲者の記録」公開 ■一次資料目録のインターネット検索開始 ■「『あの日』と『現在』をつなぐ震災資料展」開催(神戸市立灘区民ホール)	■センターHPリニューアル(資料室のコンテンツ追加)	■資料室西館2Fから5Fへ移設(10月) ■震災映像資料上映会開催「阪神・淡路大震災の記録～発生から3日間～」 ■「阪神・淡路大震災～兵庫県警察7か月の活動記録」 ■防災学習用ワークシートの配布	■震災映像資料上映会開催「ビジュアル版しあわせはこぼろ～阪神・淡路大震災からまなぶ～」 ■「市民が撮った震災映像アーカイブ」 ■「ORANGEーオレンジー」 ■神戸大学附属図書館震災文庫との横断検索開始 ■資料室HPリニューアル
【資料室担当】 夏休み子ども ワークショップ (2006～ 夏休み防災 未来学校)	■「まちの防災探偵団になろう!!」 ■「ペットボトルでかんたん液化化実験」 ■「世界災害調査隊ーHAT神戸からみえるアジアー」	■「じしんがきたらどうしようー子どもサバイバー」 ■「ペットボトルでかんたん液化化実験」	■「第5回地震火山子どもサマースクール『Mt.Rokkoのナゾ』」(日本地震学会、日本火山学会主催)	■「夏休み防災子どもクイズ2005」	■「つなみってどんなもの?ー紙芝居・稲むらの火から学ぼうー」	■「集合! いろいろ『防災ゲーム』で遊ぼう!」 ■「セッション『防災学びの現在を語ろう』」	■「震災・語り合いサロン① そのとき学校は…」
資料室 企画展等	■「地震にまつわる世界の言い伝え」	■「防災とピクトグラムーピクトグラムってなんだろう?ー」 ■「災害救助犬について、そして災害と動物について、学んでおこう」 ■第1回震災絵画展～ガレキの街から復興をめざして～	■「きみは知ってるかな? 災害と防災なるほどー! なお話」 ■「え! ほんになった阪神・淡路大震災」 ■「大震災をふりかえるー資料室に寄せられた質問から」	■「震災モニュメントーあの日を忘れないためにー」 ■「絵読ってなあに? 江戸時代の人々と地震観展」 ■「阪神・淡路大震災の資料と資料室ー人と防災未来センター所蔵資料の歴史ー」	■「定点観測写真展ー変化する街の様子とその記録ー」	■「震災記録写真展」(播磨科学公園都市)	■「水と防災」 ■「"ぼ"は防災のぼ。ー災害文化用語の基礎知識、編さん中!ー」
資料室 ニュースの 主な内容	①資料収集の談話 ②地震にまつわる言い伝え ③非常袋 ④ふりかえる(震災とトイレ、震災とボランティア) ⑤ふりかえる(被害状況、ペットと被災) ⑥震災資料の研修会・研究会	⑦ひと未来館オープン、2002年の地震情報 ⑧活断層とは ⑨土砂災害とは ⑩夏休み自由研究テーマ、サバイバル・クッキング ⑪関東大震災80周年 ⑫風水害に備えましょう ⑬災害から文化財を守ろう ⑭火災を防ぎましょう ⑮第1回震災絵画展 ⑯阪神・淡路大震災の経験をいかす	⑰被災度別建物分布状況図 ⑱資料室展示(災害と防災のなるほどなおはなし) ⑲子どもサマースクールの報告 ⑳資料室展示(震災絵本) ㉑阪神・淡路大震災とボランティア ㉒HAT神戸と人と防災未来センター	㉓犠牲者の記録の公開 ㉔資料室展示(震災モニュメントーあの日を忘れないために) ㉕減災のすすめ ㉖震災資料の保存・活用に関する研究会の開催 ㉗資料室展示(人と防災未来センター所蔵資料の歴史) ㉘救援物資に関する紙、モノ展	㉙被災地・長田を知る ㉚阪神・淡路大震災時の障害者の生活と支援 ㉛震災の復興とがれきの処理 ㉜阪神・淡路大震災時の災害医療	㉝阪神・淡路大震災と外国人 ㉞阪神・淡路大震災とまちづくり ㉟阪神・淡路大震災後の防災教育	㊱阪神・淡路大震災と水にまつわる問題 ㊲阪神・淡路大震災の記録活動 ㊳企画展/災害文化を伝えることば

■ 資料総点数の推移 (各年度3月末現在)

一次資料総点数▶	160,496	160,518	163,085	165,850	166,128	167,043	167,951
資料提供者件数▶	3,557	3,556	3,605	3,690	3,700	3,710	3,715



2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)
■阪神大水害座談会 ■「ぼうさいみらい子ども文庫」開設 ■神戸大学附属図書館との合同資料展と講演会「資料が語る震災の記憶と現在」開催 ■阪神・淡路大震災15年『震災の絵』募集開始 ■「トルコ大地震10周年資料展トルコの子ども絵画展」 ■「描かれた1.17 震災絵画展2009」 ③トルコ大地震10周年 ④阪神大水害を振り返る ④第9回DRISセミナー／災害の経験を伝える	■「描かれた阪神・淡路大震災—震災15年『震災の絵』展—」開催(兵庫県立美術館ギャラリー棟) ■「どっちの道をえらぶ!? つかれ道を体験するゲーム 子どもクロスロード」 ■「戦後神戸の歩みと阪神・淡路大震災」 ②震災から15年人と防災未来センター所蔵資料紹介 ③描かれた阪神・淡路大震災—震災15年『震災の絵』展— ④資料室企画展の開催「戦後神戸の歩みと阪神・淡路大震災」	■震災資料集vol.1『阪神・淡路大震災における住まいの再建—論説と資料—』発行 ■震災資料関連報告書3冊のインターネット公開 ■「東日本大震災・被災資料レスキュー写真展」 ■「水濡れ資料応急処置ワークショップ」 ■「兵庫と水害」 ⑤震災資料収集・保存事業を振り返る ⑥資料保存Q&A ⑦「阪神・淡路大震災における住まいの再建—論説と資料—」の刊行	■センター開設10年 ■「災害ミュージアム研究塾2012」開催 ■「ぼうさい・げんさいゲームで遊ぼう!」 ■「市民が撮った東日本大震災—『3.11キヲクのキロク』写真展—」 ■震災記録漫画「ねえねえしってたあ?」原画展 ⑧豪雨災害に備えて ⑨センター開設10年資料室の活動と所蔵資料 ⑩市民が撮った東日本大震災—『3.11キヲクのキロク』写真展—	■3F展示 震災資料のメッセージ開始「1.17の衝撃」 ■防災学習用ワークシートを改訂し「災害学習ノート」発行 ■ぼうさい出前授業実施 ■「災害ミュージアム研究塾2013」開催 ■「災害かたりつぎ研究塾」開催 ■「ぼうさい・げんさいゲームで遊ぼう!」 ■「震災の風景 被災から復興までの写真記録」 ■「災害遺構のいま」 ■「失われた神戸の記憶展」 ■「いま、撮影する『阪神・淡路大震災』—『震災を追体験する』」 ⑪資料室の新たな取り組み ⑫様々な「かたりつぎ」のあり方を考える ⑬いま、撮影する「阪神・淡路大震災」	■3F展示 震災資料のメッセージ「資料で、あのときをのぞいてみよう」 ■資料室ひろば、はてな発行 ■ぼうさい出前授業実施 ■「震災資料を助ける人々」 ■「災害から思い出の品を助けよう!」 ■「震災資料をつなぐ—収集・保存の軌跡—」 ⑭資料室ってこんなところ! ⑮1.17阪神・淡路大震災20年 ⑯つなぐ—震災資料の寄贈と20年—	■3F展示 震災資料のメッセージ「食」 ■写真資料の一部についてホームページからのダウンロード利用開始(8月) ■ぼうさい出前授業実施 ■震災資料集vol.2『所蔵資料図録—暮らしのなかの震災資料—』発行 ■「謎解き!ひとぼうツアー」 ■「防災ゲーム本気あそび」 ■「1.17のしるし—イマ／ココから考える」 ⑦ゲームで防災教育 ⑧資料室企画展 2015「1.17のしるし—イマ／ココから考える」 ⑨「所蔵資料図録—暮らしのなかの震災資料—」の刊行

171,437
3,742177,027
3,754177,622
3,759185,623
3,768186,676
3,772187,014
3,772188,516
3,786

参考資料 7

新聞記事がとりあげた人と防災未来センター

- ・記事抽出対象紙
朝日新聞、神戸新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞の計 6 紙。
神戸新聞以外はすべて大阪本社版を基本としている。
- ・記事抽出期間
平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日
- ・抽出方法
記事見出しあるいは記事本文に「人と防災未来センター」というキーワードを含むもの、センター関係者が取り上げられているものなど。

平成 26 年度センター関連記事の掲載回数

新聞名	掲載回数	掲載割合 (%)
読売新聞	20	9.0
朝日新聞	21	9.4
毎日新聞	41	18.4
神戸新聞	101	45.3
日本経済新聞	4	1.8
産経新聞	36	16.1
計	223	100.0

(参考) 掲載回数累計

新聞名	掲載回数	掲載割合 (%)
読売新聞	489	16.3
朝日新聞	411	13.7
毎日新聞	577	19.3
神戸新聞	1090	36.4
日本経済新聞	113	3.8
産経新聞	312	10.4
計	2,992	100.0

- ・主な記事内容
 - ①イベント
例：阪神・淡路大震災 21 年関連事業、夏休み防災未来学校、災害被災地派遣、災害対策専門研修、センター企画展など
 - ②人物
例：センター長、副センター長、上級研究員、主任研究員、研究員、震災資料専門員のコメントなど
 - ③各新聞の掲載記事の事例
 - ・センター研究員関係
「途切れのない支援を（ネパール地震）」『産経新聞』5 月 15 日
 - ・センター行事・資料室関係
「食を通じ振り返る 20 年（震災資料のメッセージ）」『神戸新聞』8 月 12 日
「次の世代に教訓継承へ（災害メモリアルアクション KOBE）」『神戸新聞』1 月 10 日

参考資料 8

災害対策専門研修「トップフォーラム in 岡山」カリキュラム

日 時：平成27年5月21日（木） 13：00～17：00

場 所：テクノサポート岡山 大会議室（岡山市北区芳賀 5301）

主 催：岡山県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

時 間		内 容
13：00～13：05 (05)		開講式 岡山県知事 伊原本隆太
第1部 講義	13：05～13：50 (45)	岡山県における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	13：50～14：10 (20)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 研究主幹 照本 清峰
	14：10～14：30 (20)	災害対応における広報のあり方 人と防災未来センター 研究調査員 朝日放送株式会社 報道局記者 木戸 崇之
14：30～14：40 (10)		休 憩
第2部 演習	14：40～16：15 (95)	ワークショップ 目標管理型災害対応 ・オリエンテーション 人と防災未来センター 研究員 菅野 拓 ・ワークショップ ※ 各班進行役 人と防災未来センター 研究部
	16：15～16：30 (15)	模擬記者会見 グループ代表者
	16：30～16：40 (10)	模擬記者会見の講評 人と防災未来センター 研究調査員 朝日放送株式会社 報道局記者 木戸 崇之
16：40～16：50 (10)		全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
16：50～17：00 (10)		閉 講 人と防災未来センター 副センター長 大木 健一

参考資料 8

災害対策専門研修「トッpfォーラム in 大阪」カリキュラム

日 時：平成27年7月30日（木） 13：00～17：00
 場 所：大阪府庁新別館南館8階 大研修室（大阪府中央区大手前3丁目1番43号）
 主 催：大阪府、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

時 間		内 容
13：00～13：05 (05)		開講式 大阪府副知事 竹内 廣行
第1部 講義	13：05～13：50 (45)	大阪で心配な大規模災害について 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	13：50～14：10 (20)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 研究主幹 宇田川真之
	14：10～14：30 (20)	災害対応における広報のあり方 人と防災未来センター リサーチフェロー 読売新聞大阪本社編集局 編集委員 川西 勝
14：30～14：45 (15)		休 憩
第2部 演習	14：45～16：15 (90)	ワークショップ 目標管理型災害対応 ・オリエンテーション 人と防災未来センター 主任研究員 高田 洋介 ・ワークショップ ※ 各班進行役 人と防災未来センター 研究部、リサーチフェロー
	16：15～16：35 (20)	模擬記者会見 グループ代表者
	16：35～16：42 (07)	模擬記者会見の講評 人と防災未来センター リサーチフェロー 読売新聞大阪本社編集局 編集委員 川西 勝
	16：42～16：52 (10)	演習の振り返り ※ 各班進行役 人と防災未来センター 研究部、リサーチフェロー
16：52～16：57 (05)		全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
16：57～17：00 (03)		閉 講 人と防災未来センター 副センター長 大木 健一

参考資料 8

災害対策専門研修「トッpfォーラム in 奈良」カリキュラム

日 時：平成27年11月25日（水） 13：00～17：00
 場 所：奈良県桜井市立図書館 第1研修室（奈良県桜井市大字河西31番地）
 主 催：奈良県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

時 間		内 容
13：00～13：05 (05)		開講式 奈良県副知事 奥田 喜則
第1部 講義	13：05～13：50 (45)	奈良県における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
	13：50～14：10 (20)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 研究員 菅野 拓
	14：10～14：30 (20)	災害対応における広報のあり方 人と防災未来センター リサーチフェロー 朝日放送株式会社 報道局記者 木戸 崇之
14：30～14：40 (10)		休 憩
第2部 演習	14：40～16：15 (95)	ワークショップ 目標管理型災害対応 ・オリエンテーション 人と防災未来センター 研究主幹 照本 清峰 ・ワークショップ ※ 各班進行役 人と防災未来センター 研究部
	16：15～16：35 (20)	模擬記者会見 グループ代表者
	16：35～16：45 (10)	模擬記者会見の講評 人と防災未来センター リサーチフェロー 朝日放送株式会社 報道局記者 木戸 崇之
16：45～16：55 (10)		全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭
16：55～17：00 (05)		閉 講 人と防災未来センター 副センター長 大木 健一

参考資料 8

平成 27 年度春期 災害対策専門研修

マネジメントコース：ベーシック

主担当：主任研究員 齊藤 容子

	6月2日(火)	6月3日(水)	6月4日(木)	6月5日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分		(センター展示施設見学ワークショップ) 災害時に被災者が直面する生活課題 齊藤 容子 人と防災未来センター 主任研究員 ・災害発生時に人びとが直面する生活 上の課題を具体的にイメージする 又は 都市の復興概論＋復興まちあるき	災害をもたらす自然現象の理解(地 震・津波) 清野 純史 人と防災未来センター 上級研究員 (京都大学地球環境学堂 教授) ・地震発生メカニズムと、それによ る物理的・社会的被害を理解し、自 治体の対応を考える	災害過程論 木村 玲玖 兵庫県立大学環境人間学部 准教授 ・災害発生後に、被災者が直面する 様々な課題を時間軸から理解する
2限 11時00分 ～ 12時15分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 齊藤 容子 人と防災未来センター 主任研究員	小林 郁雄 人と防災未来センター 上級研究員 (兵庫県立大学 特任教授) 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・ARを利用しながら阪神・淡路大震 災の被災地を歩き、復興過程と様々 な取り組みを学ぶ	危機管理総論 高田 洋介 人と防災未来センター 主任研究員 ・危機管理の基礎的な考え方と実務上 のとらえ方を理解する	災害関連法体系基礎 山崎 栄一 関西大学社会安全学部 教授 ・災害対応にあたって使える権限・財 源を理解する ・災害対策基本法・災害救助法の守備 範囲を理解する
3限 13時15分 ～ 14時30分	我が国における災害対応の動向 四日市 正俊 内閣府政策統括官(防災担当) 付参 事官(事業推進担当) ・東日本震災の経験を踏まえて、最新 の国の災害対応体制について理解する	災害をもたらす自然現象の理解(風 水害) 川池 健司 京都大学防災研究所 准教授 ・風水害の発生過程とその対応方法を 理解し、自治体の対応を考える	民間企業の災害対応 水島 重光 千葉県生活協同組合連合会 災害対策委員会アドバイザー(減災 塾塾長) ・災害時の被災者支援における、行政と 民間企業との連携について理解する	リスクコミュニケーション概論 吉川 肇子 慶応義塾大学商学部 教授 ・人びとがリスクをどのように認識して いるのかを理解したうえで、緊急時 の効果的な情報伝達方法を理解する
4限 14時45分 ～ 16時00分	地域防災計画論 今石 佳太 人と防災未来センター DisasterManager (芦屋市企画部 市長室長) ・地域防災計画の法的な位置づけとそ れを補完するプログラム、活用方策 の事例を理解する	(センター展示施設見学ワークショップ) 災害時に被災者が直面する生活課題 齊藤 容子 人と防災未来センター 主任研究員 ・災害発生時に人びとが直面する生活 上の課題を具体的にイメージする 又は 都市の復興概論＋復興まちあるき	防災・減災カフェ 「大規模災害における行政の対応の実態」 畑 文隆 西宮市開発指導 課長 (元南三陸町復興事業推進課出向)	全体討論会 齊藤 容子 人と防災未来センター 主任研究員 等 ・参加者の意見交換から、災害対応に おける姿勢を学ぶ
5限 16時15分 ～ 17時30分	災害史と社会 福和 伸夫 人と防災未来センター上級研究員 (名古屋大学 減災連携研究センター 長・教授) ・過去の震災が歴史に与えた影響を学び つつ、現代の都市と社会の分析をとお して、その脆弱性と災害像を予測し、 備えの方法を考える	小林 郁雄 人と防災未来センター 上級研究員 (兵庫県立大学 特任教授) 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・ARを利用しながら阪神・淡路大震 災の被災地を歩き、復興過程と様々 な取り組みを学ぶ		16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 開講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	

マネジメントコース：エキスパートA

主担当：主任研究員 古本 尚樹

	6月9日(火)	6月10日(水)	6月11日(木)	6月12日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	(センター展示見学：希望者のみ)	災害対応概論(初動期) 菅野 拓 人と防災未来センター研究員 古越 武彦 人と防災未来センターリ サーチフェロー(長野県危機管理部危 機管理防災課危機管理係担当係長) ・初動対応時の対応と課題について理 解を深める	市民社会ワークショップ 菅野 拓 人と防災未来センター研究員 本荘 雄一 神戸都市問題研究所研究部長 山本 康史 ハローボランティア・ネットワークみえ代表 平野 昌 ハローボランティア・ネットワークみえ事務局 ・災害時の被災社会の対応において、 ボランティアの果たす役割、市民の 力の特徴と行政との関係のあり方 について理解を深める	災害対応ワークショップ 古本 尚樹 人と防災未来センター主任研究員 ・演習を通じて目標管理型災害対応の 考え方を身につける
2限 11時00分 ～ 12時15分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 古本 尚樹 人と防災未来センター主任研究員	災害対応概論(応急期) 古本 尚樹 人と防災未来センター主任研究員 古越 武彦 人と防災未来センターリ サーチフェロー(長野県危機管理部危 機管理防災課危機管理係担当係長) ・応急対応期の対応と課題について理 解を深める		
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害と男女共同参画 齊藤 容子 人と防災未来センター主任研究員 ・災害時における男女共同参画の視点 をこれまでの事例を踏まえて理解を 深める。	災害対応概論(復興・復興期) 越山 健治 人と防災未来センターリ サーチフェロー(関西大学 社会安全 学部 准教授) ・復興・復興期の対応と課題について 学ぶ	災害対応各論(災害時の物流対応) 興村 徹(株)日通総合研究所取締役 役(教育コンサルティング部担当兼 教育コンサルティング部長) ・災害直後から被災者の生活支援のた めの物流対応について、自治体担当 部署のみならず民間運送会社などの 能力も活用した実践的な事例を学ぶ	災害対応各論(被災者救護の実践的 取り組み) 三上 晴由貴 (新潟県福祉保健部医療事業課副参事 (地域医療係長)) ・災害救助法適用事例から災害救助法 の理解を深める
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害対応各論(医療活動) 甲斐 達朗 人と防災未来センター上級研究員 (済生会千里病院 千里救命救急セン ター) ・災害現場の医療活動体制について理 解を深める	災害対応演習(クマ演習) 近藤 伸也 人と防災未来センターリ サーチフェロー(宇都宮大学 地域連 携教育研究センター 准教授) ・危機発生時の具体的な課題をもと に、災害対応の考え方について学ぶ	災害対応各論(広域連携) 阪本 真由美 人と防災未来センター リサーチフェロー(名古屋大学 減災連 携研究センター 特任准教授) ・災害時の被災自治体の対応におい て、広域連携のあり方について理解 を深める	全体振りかえり ワークショップ 古本 尚樹 人と防災未来センター主任研究員 ・災害対応に関わるワークショップを 行い、研修で得た知識を実践に活か す方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	危機対応時の組織論(情報システム) 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・災害発生前後の情報の収集・整理と共 有化の重要性を理解し、情報システム (GISなど)の活用方策を学ぶ	危機対応各論(行政と自衛隊との連携) 越野 修三 岩手大学 地域防災研究センター教授 ・行政と自衛隊の連携について理解を 深める	危機対応時の組織論(戦略的な広報 について) 安富 信 人と防災未来センターリ サーチフェロー(神戸学院大学 現代 社会学部社会防災学科 教授) 川西 勝 人と防災未来センターリサ ーチフェロー(読売新聞大阪本社 編集委員) ・災害時の情報提供方法、報道機関対 応の課題を学ぶ	16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 開講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	



マネジメントコース：エキスパートB

主担当：研究員 菅野 拓

	6月16日（火）	6月17日（水）	6月18日（木）	6月19日（金）
1限 09時30分 ～ 10時45分	（センター展示見学：希望者のみ）	業務継続計画論 紅谷 昇平 人と防災未来センターリサーチフェロー （神戸大学 社会科学系教育研究府特 命准教授） ・各公共機関におけるBCPの意味と 重要性について、また、その導入に ついて、具体的な事例を交えて理解 する	標準的な災害対応システム論 牧 紀男 人と防災未来センター震災資料研究 主幹（京都大学防災研究所教授） ・災害対応における標準的業務手順や 対応手法について学ぶ	災害対策本部の空間構成設計演習 元谷 豊 株式会社サイエンスクラフト取締役 マネージャー・主席コンサルタント ・災害対策本部のレイアウトの重要 性、また適切なレイアウトについて、 演習を交えて理解する
2限 11時00分 ～ 12時15分	10：40～11：00 開講式 11：00～12：15 オリエンテーション 菅野 拓 人と防災未来センター研究員	災害時のこころのケア 大澤 智子 兵庫県こころのケアセンター 研究主幹 ・災害発生初期の被災者に対する援 し方及び災害対応業務を行う上での マインドケアについて	都市巨大災害論 河田 恵昭 人と防災未来センター長 ・事例を通じて災害による被害過程の 全体像について理解する	
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害時の健康危機管理 高田 洋介 人と防災未来センター主任研究員 ・被災住民の健康危機に対する行政の 支援について理解を深める	災害時要援護者への対応 立木 茂雄 人と防災未来センター上級研究員 （同志社大学 社会学部教授） ・災害時要援護者の実態とそれを踏ま えた対応について学ぶ	ゲーミング手法を活用した防災・減 災ワークショップ 矢守 克也 人と防災未来センター上級研究員（京 都大学防災研究所巨大災害研究セン ター・教授・センター長） ・阪神・淡路大震災の事例を踏まえつ つ、災害時の対応イメージを豊かに することの重要性とその方法につい て、ゲーミング手法を活用して学ぶ	防災・減災の普及啓発 竹村 茂也 三重県防災対策部防災企画・地域支 援課地域支援班長 後藤 武志 飯田市危機管理室防災係長 ・先進自治体の地域に向けての防災・ 減災活動について学び、地域への発 信についての示唆を得る
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害の対応事例と教訓 齋藤 富雄 兵庫県国際交流協会理事長 （元兵庫県防災監） ・災害事例をもとに、災害対応の課題 と対応方法の考え方について理解を 深める ・事例をもとに意見交換を行い、災害 対応のあり方について理解を深める	災害情報の受発信手法 近藤 誠司 人と防災未来センターリサーチフェロー （関西大学社会安全学部准教授） ・被害情報の受信（取集）と発信（広 報）およびこれらを総合した情報共 有のあり方について学ぶ		全体振りがえりワークショップ 菅野 拓 人と防災未来センター研究員 ・災害対応に関わるワークショップを 行い、研修で得た知識を実践に活か す方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	避難の実態と課題 宇田川 真之 人と防災未来センター研究主幹 ・災害種別ごとに異なる避難行動のタ イミングと避難が困難な要援護者へ の対応について学ぶ	NGO/NPOの災害対応と協働 明城 徹也 全国災害ボランティア支援団体ネッ トワーク（JVOD）事務局長 菅野 拓 人と防災未来センター研究員 ・NGO/NPOに対する理解を深め、災 害支援における民間と行政の連携に ついて学ぶ	被害認定業務 田中 聡 常葉大学社会環境学部教授 ・被害認定の種類、また被災者への支 援にとって重要な罹災証明書発行業 務の実務について	16：00～16：40 レポートタイム 16：40～16：55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	

参考資料 8

平成 27 年度秋期 災害対策専門研修

マネジメントコース：エキスパート A

主担当：研究員 坪井 惣太郎

	10月6日(火)	10月7日(水)	10月8日(木)	10月9日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分	(センター展示見学：希望者のみ)	市民社会ワークショップ 立木 茂雄 人と防災未来センター上級研究員 (同志社大学社会学部 教授) 山本 康史 ハローボランティア・ ネットワークみえ代表	危機対応時の組織論 (情報システム) 宇田川 真之 人と防災未来センター 研究主幹 ・災害発生前後の情報の収集・整理と 共有化の重要性を理解し、情報シス テム (GIS など) の活用方法を学ぶ	災害対応ワークショップ 坪井 惣太郎 人と防災未来センター研究員 ・演習を通じて目標管理型災害対応の 考え方を身につける
2限 11時00分 ～ 12時15分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 坪井 惣太郎 人と防災未来センター研究員	ネットワークみえ事務局 ・災害時の被災社会の対応において、 ボランティアの果たす役割、市民の 力の特徴と行政との関係のあり方について 理解を深める	災害対応概論 (復旧・復興期) 越山 健治 人と防災未来センター リサーチフェロー (関西大学 社会 安全学部 准教授) ・復旧・復興期の対応と課題について 学ぶ	
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害対応各論 (災害時の物流対応) 興村 徹 (株) 日通総合研究所 取 締役 教育コンサルティング部長 ・災害直後から被災者の生活支援のた めの物流対応について、自治体担当 部署のみならず民間運送会社などの 能力も活用した実践的な事例を学ぶ	災害対応演習 (クマ演習) 菅野 拓 人と防災未来センター研究員 ・危機発生時の具体的な課題をもと に、災害対応の考え方について学ぶ	災害対応各論 (医療活動) 甲斐 達朗 人と防災未来センター上級研究員 (済 生会千里病院 千里救命救急センター) ・災害現場の医療活動体制について理 解を深める	災害対応各論 (被災者救護の実践的 取り組み) 三上 晴由貴 (新潟県福祉保健部医務薬事課副参事 (地域医療係長)) ・災害救助法適用事例から災害救助法 の理解を深める
4限 14時45分 ～ 16時00分	災害対応概論 (初動期) 高田 洋介 人と防災未来センター主任研究員 古越 武彦 人と防災未来センターリサーチフェロー (長野県危機管理部危機管理防災課危機 管理係 担当係長) ・初動対応時の対応と課題について理 解を深める	災害対応各論 (広域連携) 阪本 真由美 人と防災未来センターリサーチフェロー (名古屋大学 減災連携研究センター 特任准教授) ・災害時の被災自治体の対応におい て、広域連携のあり方について理解 を深める	災害と男女共同参画 浅野 幸子 大学非常勤講師 早稲田大学「地域社会と危機管理研 究所」招聘研究員 減災と男女共同参画研修推進セン ター 共同代表 ・災害時における男女共同参画の視	全体振りかえり ワークショップ 坪井 惣太郎 人と防災未来センター研究員 ・災害対応に関わるワークショップを 行い、研修で得た知識を実践に活か す方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	災害対応概論 (応急期) 古本 尚樹 人と防災未来センター主任研究員 古越 武彦 人と防災未来センターリサーチフェロー (長野県危機管理部危機管理防災課危機 管理係 担当係長) ・応急対応期の対応と課題について理 解を深める	危機対応各論 (行政と自衛隊との連携) 越野 修三 岩手大学 地域防災研究センター教授 ・行政と自衛隊の連携について理解を 深める	危機対応時の組織論 (戦略的な広報 について) 安富 信 人と防災未来センターリ サーチフェロー (神戸学院大学 現代 社会学部社会防災学科 教授) 川西 勝 人と防災未来センターリサ ーチフェロー (読売新聞大阪本社 編集委員) ・災害時の情報提供方法、報道機関対 応の課題を学ぶ	16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	

マネジメントコース：エキスパート B

主担当：研究員 荒木 裕子

	10月13日(火)	10月14日(水)	10月15日(木)	10月16日(金)
1限 09時30分 ～ 10時45分		災害時のこころのケア 大澤 智子 兵庫県こころのケアセンター 研究主幹 ・災害発生初動期の被災者に対する接 し方及び災害対応業務を行う上での マインドケアについて	災害時要援護者への対応 立木 茂雄 人と防災未来センター上級研究員 (同志社大学 社会学部教授) ・災害時要援護者の実態とそれを踏ま えた対応について学ぶ	災害対策本部の空間構成設計演習 元谷 豊 株式会社サイエンスクラフト取締役 マネージャー・主席コンサルタント ・災害対策本部のレイアウトの重要 性、また適切なレイアウトについて、 演習を交えて理解する
2限 11時00分 ～ 12時15分	10:40～11:00 開講式 11:00～12:15 オリエンテーション 荒木 裕子 人と防災未来センター研究員	標準的な災害対応システム論 牧 紀男 人と防災未来センター震災資料研究 主幹 (京都大学防災研究所教授) ・災害対応における標準的業務手順や 対応手法について学ぶ	都市巨大災害論 河田 恵昭 人と防災未来センター長 ・事例を通じて災害による被害過程の 全体像について理解する	
3限 13時15分 ～ 14時30分	災害情報の受信手法 木戸 崇之 人と防災未来センターリサーチフェロー (朝日放送報道局 ニュース情報セン ター 記者) ・被害情報の受信 (収集) と発信 (広 報) およびこれらを総合した情報共 有のあり方について学ぶ	業務継続計画論 紅谷 昇平 人と防災未来センターリサーチフェロー (神戸大学 社会科学系教育研究府特 命准教授) ・各公共機関におけるBCPの意味と 重要性について、また、その導入に ついて、具体的な事例を交えて理解 する	NGO/NPO の災害対応と協働 明城 徹也 全国災害ボランティア支援団体ネッ トワーク (JVOAD) 事務局長 菅野 拓 人と防災未来センター研究員 ・NGO/NPO に対する理解を深め、災 害支援における民間と行政の連携に ついて学ぶ	被災者行政の流れと課題 田中 聡 常葉大学大学院環境防災研究科教授 ・被災者の生活再建に向けた初期段階 の行政業務の一連の流れや被害認定 について学ぶ
4限 14時45分 ～ 16時00分	防災・減災の普及啓発 後藤 武志 飯田市危機管理室防災係長 鈴木 智久 仙台市危機管理室防災計画課主査 ・先進自治体の地域に向けての防災・ 減災活動について学び、地域への発 信についての示唆を得る	災害時の健康危機管理 高田 洋介 人と防災未来センター主任研究員 ・被災住民の健康危機に対する行政の 支援について理解を深める	ゲーミング手法を活用した防災・減 災ワークショップ 矢守 克也 人と防災未来センター上級研究員 (京 都大学防災研究所巨大災害研究セン ター・教授・センター長) ・阪神・淡路大震災の事例を踏まえつ つ、災害時の対応イメージを豊かに することの重要性とその方法につい て、ゲーミング手法を活用して学ぶ	全体振りかえりワークショップ 荒木 裕子 人と防災未来センター研究員 ・災害対応に関わるワークショップを 行い、研修で得た知識を実践に活か す方法を考える
5限 16時15分 ～ 17時30分	災害の対応事例と教訓 齋藤 富雄 兵庫県国際交流協会理事 (元兵庫県防災監) ・災害事例をもとに、災害対応の課題 と対応方法の考え方について理解を 深める ・事例をもとに意見交換を行い、災害 対応のあり方について理解を深める	避難の実態と課題 宇田川 真之 人と防災未来センター研究主幹 ・災害種別ごとに異なる避難行動のタ イミングと避難が困難な要援護者へ の対応について学ぶ		16:00～16:40 レポートタイム 16:40～16:55 閉講式
17時30分 ～ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	



アドバンスト／防災監・危機管理監コース

主担当：主任研究員 高田 洋介

10月19日(月)	10月20日(火)
	(9:30～11:00) 90分 「行政対応特論②」 齋藤 富雄 兵庫県国際交流協会理事長（元 兵庫県防災監） 県における大規模災害時の対応事例を知り、災害発生後の対応や課題と首長に助言すべき内容を学ぶ。講義は討論形式で行う。
(10:40～11:00) 開講式 (11:00～12:00) オリエンテーション 高田 洋介 人と防災未来センター 主任研究員	(11:15～12:30) 75分 「災害対応特論」 室崎 益輝 (公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構 副理事長 災害の状況に応じて既存法制度の限界部分、対応策についての指示、判断ができるようになるための考えを深める。講義は討論形式で行う。
休 憩	
(13:00～14:30) 90分 「行政対応特論①」 鬼頭 哲也 丹波市 副市長 市町村における災害対応事例から課題や教訓を学ぶ	(13:30～16:00) 150分（途中休憩あり） 「災害対応検討ワークショップ」 演習を通じて目標管理型災害対応の考え方を身につける 室崎 益輝 (公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構 副理事長 高田 洋介 人と防災未来センター 主任研究員
(14:45～15:30) 45分 「目標管理型災害対応論」 高田 洋介 人と防災未来センター 主任研究員 目標管理型災害対応の考え方やその具体的内容について、過去の災害事例を踏まえ理解する。	
(15:45～17:15) 90分 「危機対応組織論」 河田 恵昭 人と防災未来センター センター長 危機対応をする上で首長を補佐する職にある人が必要とする能力について理解する。	(16:00～16:15) レポートタイム (16:15～16:30) 閉講式
(17:15～17:30) レポートタイム	

参考資料 8

平成 27 年度 災害対策専門研修特設コース

図上訓練を用いた災害対策本部運営・広報コース

主担当：研究主幹 宇田川 真之

12月9日(水)	12月10日(木)
	(9:00～9:05) オリエンテーション（2日目）
(10:00～10:10) 開講式 (10:10～10:25) オリエンテーション 研究主幹 宇田川 真之 演習の全体像、構成について	(9:05～9:30) 講義：災害時の広報対応 朝日放送株式会社 木戸崇之 (9:30～9:45) 作戦会議 (9:45～12:20) 第2回図上訓練 発生2日後 ※途中で、下記を実施 ・本部事務局ミーティング ・県市調整会議 ・ラジオ取材
(10:25～10:55) 講義：災害対策本部での業務 研究主幹 照本 清峰 (10:55～11:30) 図上訓練ルール説明 1 (11:30～12:15) 班分け+班ごとのガイダンス	(12:20～12:35) 本部長レク 1週間後までの災害対応計画の検討 (12:35～13:00) 記者会見の準備 想定 Q&A 等
(12:15～13:15) 休 憩	(13:00～14:00) 休 憩
(13:15～14:10) 作戦会議 (14:10～16:35) 第1回図上訓練 地震発生当日 ※途中で、下記を実施 ・本部事務局ミーティング ・県市調整会議 (16:35～16:50) 本部長レク 状況認識の統一など (16:50～17:00) ラジオ取材	(14:00～15:15) 記者会見シュミレーション 災害対応（演習）を踏まえた記者発表を行う。
(17:00～17:10) 休 憩	(15:15～15:25) 休 憩
(17:10～17:50) 振り返り 各グループ・担当ごとに振り返り (17:50～18:00) 講評	(15:25～17:20) 振り返り・講評 各班ごとに振り返り、全体講評
(18:00～18:30) 作戦会議 翌日の図上訓練に向けた改善、準備	(17:20～17:30) 閉講式

フォローアップセミナー in 高知

場所：9月15日 城西館、9月16日 黒潮町、高知共済会館

主担当：研究員 菅野 拓

9月15日(火)	9月16日(水)
(12:00～13:00) ○自治体災害対策全国会議 受付 (13:00～13:10) ○開会 (13:10～13:50) ○基調報告「南海トラフ地震対策を含めた高知県の国土強靱化対策」 尾崎 正直（高知県知事） (13:50～14:40) ○基調講演「土砂災害と自治体がおかれている現状」 池谷 浩（砂防・地すべり技術センター研究顧問） (14:40～15:00) ○特別報告「平成26年広島豪雨災害を踏まえた土砂災害時の避難対策の現状と課題」 兵谷 芳康（内閣府大臣官房審議官（防災担当）） (15:15～16:55) ○分科会 ・第1分科会「土砂災害における警戒避難体制の構築」 座 長：笹原克夫（高知大学農学部教授） 報告者：三重県紀宝町「タイムライン試行から見えてきたこれからの防災行動」 兵庫県丹波市「平成26年丹波豪雨時の対応と教訓」 ・第2分科会「南海トラフ地震対策と事前復興計画」 座 長：木村玲欧（兵庫県立大学環境人間学部准教授） 報告者：和歌山県串本町「関西初の津波防災地域づくり推進計画に基づくまちづくり」 徳島県美波町「住民主体の事前復興まちづくり計画」 (17:05～17:55) ○分科会報告・全体総括	(8:20～16:00) 現地視察 ○集合 8:20 城西館前に集合 借上バスにより黒潮町へ移動 ○現地視察(10:30～12:00) 〔黒潮町内〕・防災缶詰工場（株黒潮町缶詰製作所） ・津波避難タワー ○休憩(12:00～12:50) ○意見交換(13:00～14:00) 黒潮町の取組の紹介と参加者との意見交換 ○借上バスにより黒潮町から移動、高知県庁前で借上バスから下車 *以上 平成27年度自治体災害対策全国会議のカリキュラムに参加 (16:00～17:00) バス下車後、高知共済会館へ移動、休憩 (17:00～19:30) ○開会 ○自治体災害対策全国会議の内容を踏まえた防災施策の検討 「演習 防災課題に対する戦略思考ワークショップの開発」 菅野 拓 人と防災未来センター研究員



フォローアップセミナー

場所：人と防災未来センター 東館 6F 第1・第2会議室
東館 4F 兵庫県立大学大教室

テーマ：防災力向上につながる自治体発の取組

主担当：菅野拓研究員

2月18日(木)	2月19日(金)
	(09:30～12:30) 「平成27年度災害対応・防災事例報告」 ・各自治体における災害対応事例、防災体制の見直し、防災にかかわる施策の実施等について参加者間の情報交換を行う。 (途中休憩あり)
(13:00～13:10) 開講式	(12:30～13:30) 休憩
(13:10～13:45) オリエンテーション・自己紹介	(13:30～15:45) 「防災課題に対する戦略思考ワークショップ」の開発
(13:45～14:00) 休憩・部屋移動 → 4階兵庫県立大学大教室	
(14:00～17:30) 「平成27年度中核的研究プロジェクト成果報告会」 ○研究成果の発表 被災地域の避難所の総合マネジメント [荒木裕子] NPO・NGO等の非営利組織と行政機関の連携方策 [菅野 拓] 要介護者への支援マネジメントに関する行政と外部組織の連携 [古本尚樹] 行政機関と外部機関の効果的な連携を可能にするための主題図の検討 [坪井聖太郎] 孤立集落に対する支援における外部組織との連携体制 [石原凌河] 防災部局と連携した災害時の健康危機管理システムの構築 [高田洋介] 民間流通・物流事業者と連携した救援物資の提供体制の構築 [宇田川真之]	(15:45～15:55) 事務連絡 「災害対策専門研修サポーター制度について」 ・平成28年度 災害対策専門研修サポーター制度について説明 ・平成28年度 災害対策専門研修について説明
○意見交換及び総合討論 (途中休憩あり)	(15:55～16:10) レポートタイム
	(閉講)

参考資料 8

平成 27 年度 防災スペシャリスト養成研修

(有明の丘 1 期)

① 防災基礎					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
9月3日	危機管理総論 牛山 素行 (静岡大学)	防災行政基礎 内閣府		災害法体系と防災 計画 内閣府	地震・津波災害の メカニズムと実態 (事例) 丸山 喜久 (千葉大学)
9月4日	風水害のメカニ ズムと実態 (事例) 牛山 素行 (静岡大学)	火山災害のメカニ ズムと実態 (事例) 石原 和弘 (火山防災推進機構)	災害対応過程と態度を学ぶ 竹本加良子 (サイエンスクラフト)		全体討論 閉校式

② 減災対策					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
9月17日	減災対策総論 丸谷 浩明 (東北大)	各省庁の減災対策 内閣府	ボランティア・ 市民団体 浦野 愛 (レスキューストックヤード)	企業防災 野口 和彦 (横浜国立大)	減災対策 ワークショップ 丸谷 浩明 (東北大)
9月18日	住民啓発・防災教育 ワークショップ 鍵屋 一 (跡見学園女子大)	住民啓発・防災教育 災害教訓の伝承 国崎 信江 (危機管理教育研究所)	行政の BCM 丸谷 浩明 (東北大)	自主防災活動 地区防災計画 磯打千雅子 (香川大)	全体討論 閉校式

③ 訓練企画コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
10月1日	訓練企画の枠組 宇治田 和 (ランドブレイン) 近藤 伸也 (宇都宮大)	訓練企画手法 宇治田 和 (ランドブレイン) 近藤 伸也 (宇都宮大)	訓練事例 内閣府	訓練企画運営実践Ⅰ 討議型図上演習 (エスノグラフィー演習) 竹本加良子 (サイエンスクラフト)	
10月2日	訓練企画運営実践Ⅱ 状況付与型図上演習 黒田 洋司 (消防防災科学センター)		訓練の運営、評価・改善手法 宇治田 和 (ランドブレイン) 近藤 伸也 (宇都宮大)		全体討論 閉校式

④ 警報避難コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
9月8日	警報避難対策の枠組 林 春男 (京都大)	避難勧告 ガイドライン 内閣府	警報等の種類と 内容 気象庁	避難場所・避難所 の認定 林 春男 (京都大)	避難場所・避難所の 適否判断の実務 林 春男 (京都大) 飯沼克英 (元新潟県) 井ノ口宗成 (新潟大)
9月9日	土砂災害における 警報と避難 池谷 浩 (砂防・地すべり 技術センター)	広島土砂災害の 事例に学ぶ 林 春男 (京都大) 飯沼克英 (元新潟県) 井ノ口宗成 (新潟大)	風水害における 警報と避難 林 春男 (京都大)	風水害における タイムライン計画 林 春男 (京都大)	全体討論 閉校式

⑤ 物資物流・広域行政コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
10月8日	救援物資調達 供給の枠組 笠原 治清 (コメリ災害対策 センター)	物資調達演習 矢野 裕之 (日通総研)	交通の確保 国土交通省	緊急輸送 警察庁	救援物資調達 供給の実務と課題 興村 徹 (日通総研)
10月9日	広域的な 応援体制の枠組 長尾 聡 (新潟県)	国における 応援体制 内閣府	自衛隊の災害派遣 世良 達裕 (防衛庁)	広域応援・受援 ワークショップ 宇田川真之 (人と防災未来 センター)	全体討論 閉校式

⑥ 避難収容・被災者支援コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
9月10日	避難収容と 被災者支援の枠組み 田村 圭子 (新潟大)	避難収容と被災者 支援の種類と内容 内閣府	広域一時滞在と被 災者への情報提供 小海 崇史 (新潟県)	応急仮設住宅の 確保 大水 敏弘 (大槌町)	要配慮者への対応 立木 茂雄 (同志社大)
9月11日	避難所運営ワークショップ 鍵屋 一 (跡見学園女子大)		被災者への 医療活動 阿南 英明 (藤沢市民病院)	被災者生活 再建支援 内閣府	全体討論 閉校式

⑦ 復旧復興コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
9月24日	復旧・復興総論 中林 一樹 (明治大)	被災施設・設備の 応急復旧 内閣府	災害廃棄物処理 環境省	復旧・復興推進上 の課題と事前の復 興対策の意義 畑 文隆 (西宮市)	経済復興支援と被 災者の雇用支援 遠藤 勝裕 (日本学生支援機構)
9月25日	復興基本計画と 復興まちづくり 室崎 益輝 (兵庫県立大)	住まいと 生活の再建 鳥井 静夫 (東京都)	復旧復興計画策定ワークショップ 中林 一樹 (明治大)		全体討論・閉講

⑧ 計画立案コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
9月29日	組織マネジメント 渡辺 研司 (名古屋工業大)	被害予測・ 被害軽減 本蔵 義守 (東京工業大)	情報収集・分析演習 中石 正一 (武揚堂)		計画立案・意思決定 山本 晋吾 (人と防災未来センター) 新堀 賢志 (明治大)
9月30日	災害対策本部運営訓練 山本 晋吾 (人と防災未来センター) 新堀 賢志 (明治大)		情報分析・実行管理訓練 山本 晋吾 (人と防災未来センター) 新堀 賢志 (明治大)		全体討論 閉校式

⑨ 広報コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
10月6日	組織マネジメント 山本 晋吾 (人と防災未来センター)	災害広報(概論) 辻村 和人 (NHK)	情報対応の実態 村上 圭子 (NHK 放送文化研究所)	広報資料作成訓練 高橋 淳夫 (読売新聞)	
10月7日	模擬記者会見 岸本 文利 (毎日放送)		情報伝達と 情報管理 大和田智広 (陸前高田市)	マスコミ対応の 実態 木戸 崇之 (朝日放送)	全体討論 閉校式

⑩ 総合コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
9月15日	組織マネジメント 山本 晋吾 (人と防災未来センター)	情報分析・実行管理訓練 菅野 拓 (人と防災未来センター)		模擬記者会見 岸本 文利 (毎日放送)	
9月16日	本部組織体制・ICS 熊丸由布治 (日本防災デザイン)	計画立案・活動調整 近藤 伸也 (宇都宮大)	災害対策本部運営訓練 近藤 伸也 (宇都宮大)		全体討論 閉校式

(有明の丘 2期)

① 防災基礎					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
1月26日	危機管理総論 牛山 素行 (静岡大)	防災行政概要 内閣府	災害法体系 内閣府	防災計画 内閣府	地震・津波災害のメカニズムと実態(事例) 林 能成 (関西大)
1月27日	風水害のメカニズムと実態(事例) 牛山 素行 (静岡大)	火山災害のメカニズムと実態(事例) 石原 和弘 (火山防災措置機構)	災害対応ワークショップ (災害対応過程と態度を学ぶ) 竹本加良子 (有明人材育成タスクフォース)		全体討論 閉校式

② 減災対策					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
2月18日	減災対策総論 丸谷 浩明 (東北大)	各省庁の減災対策 内閣府	ボランティア・市民団体 松田 曜子 (レスキューストックヤード)	企業防災 野口 和彦 (横浜国立大)	減災対策ワークショップ 丸谷 浩明 (東北大)
2月19日	行政のBCM 丸谷 浩明 (東北大)	住民啓発・防災教育 災害教訓の伝承 国崎 信江 (危機管理教育研究所)	住民啓発・防災教育 ワークショップ 鍵屋 一 (跡見学園女子大)	自主防災活動 地区防災計画 加藤 孝明 (東京大)	全体討論 閉校式

③ 訓練企画コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
1月28日	訓練企画の枠組 近藤 伸也 (宇都宮大)	訓練企画手法 宇治田 和 (ランドブレイン) 近藤 伸也 (宇都宮大)	訓練事例 内閣府	訓練企画運営実践Ⅰ 討議型図上演習 (エスノグラフィー演習) 元谷 豊 (サイエンスクラフト)	
1月29日	訓練企画運営実践Ⅱ 状況付与型図上演習 黒田 洋司 (消防科学総合センター)		訓練の運営、評価・改善手法 宇治田 和 (ランドブレイン) 近藤 伸也 (宇都宮大)		全体討論 閉校式

④ 警報避難コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
2月4日	警報避難対策の 枠組 林 春男 (防災科学技術研究所)	避難勧告 ガイドライン 内閣府	警報等の 種類と内容 気象庁	避難場所・避難所 の認定 林 春男 (防災科学技術研究所)	避難場所・避難所 の適否判断の実務 林春男 (防災科学技術研究所) 飯沼克英 (新潟県火災共済) 越野修三 (岩手大) 井ノ口宗成 (静岡大)
2月5日	土砂災害における 警報と避難 池谷 浩 (砂防・地すべり 技術センター)	広島土砂災害の 事例に学ぶ 林春男 (防災科学技術研究所) 越野修三 (岩手大) 井ノ口宗成 (静岡大)	風水害における 警報と避難 林 春男 (防災科学技術研究所)	風水害における タイムライン計画 越野修三 (岩手大) 井ノ口宗成 (静岡大)	全体討論 閉校式

⑤ 物資物流・広域行政コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
2月25日	救援物資調達 の実務と課題 笠原 治清 (コメリ災害対策 センター)	救援物資輸配送の 実務と課題 興村 徹 (日通総研)	警察災害派遣隊の 活動と緊急輸送路 の確保 警察庁	交通の確保 国土交通省	物資物流演習 矢野 裕之 (日通総研)
2月26日	広域的な応援体制 の枠組 長尾 聡 (新潟県)	国における 応援体制 内閣府	自衛隊の災害派遣 防衛庁	広域応援・受援 ワークショップ 宇田川真之 (人と防災未来 センター)	全体討論 閉校式

⑥ 避難収容・被災者支援コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
2月23日	被災者支援の 全体像 田村 圭子 (新潟大)	災害救助法と 生活再建支援 内閣府	避難生活の支援 浦野 愛 (レスキューストックヤード) 五十嵐由利子 (新潟青陵大)	多様な主体による 被災者支援 立木 茂雄 (同志社大)	避難所の ライフサイクル 鍵屋 一 (跡見学園女子大)
2月24日	避難所以外の 避難生活 石上 和男 (新潟医療福祉大)	仮設住宅のライフ サイクル 大水 敏弘 (大槌町)	医療による 被災者支援 阿南 英明 (藤沢市民病院)	被災者支援の 個別課題 森永健二 (東京都) 小海崇史 (新潟県) 山本晋吾 (人と防災未来センター)	全体討論 閉校式

⑦ 復旧復興コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
2月9日	復旧・復興総論 中林 一樹 (明治大)	被災施設・設備の 応急復旧 小川 剛史 (内閣府)	災害廃棄物処理 切川 卓也 (環境省)	住まいと 生活の再建 鳥井 静夫 (東京都)	経済復興支援と 被災者の雇用支援 遠藤 勝裕 (日本学生支援機構)
2月10日	復興基本計画と 復興まちづくり 室崎 益輝 (兵庫県立大)	復旧・復興推進上 の課題と事前の復 興対策の意義 畑 文隆 (西宮市)	復旧復興計画策定ワークショップ 中林 一樹 (明治大)		全体討論・閉講

⑧ 計画立案コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
2月16日	総合管理体系 山本 晋吾 (人と防災未来 センター)	災害対策の検討と ステークホルダー 阪本真由美 (名古屋大)	情報収集・分析演習 中石 正一 (武揚堂)		作戦立案の理論と手法 山本 晋吾 (人と防災未来センター) 新堀 賢志 (火山防災推進機構)
2月17日	災害対策本部運営訓練 山本 晋吾 (人と防災未来センター) 新堀 賢志 (明治大)		情報分析・実行管理訓練 山本 晋吾 (人と防災未来センター) 新堀 賢志 (明治大)		全体討論 閉校式

⑨ 広報コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
3月1日	組織マネジメント 近藤 伸也 (宇都宮大)	災害広報(概論) 辻村 和人 (NHK)	情報伝達と 情報管理 桜井 誠一 (元神戸市)	広報資料作成訓練 高橋 淳夫 (読売新聞)	
3月2日	情報対応の実態 村上 圭子 (NHK 放送 文化研究所)	マスコミ対応の 実態 木戸 崇之 (朝日放送)	模擬記者会見 岸本 文利 (毎日放送)		全体討論 閉校式

⑩ 総合コース					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
2月2日	組織マネジメント 事業継続マネジメント 渡辺 研司 (名古屋工業大)	ハザードとリスク・ 脆弱性 本蔵 義守 (東京工業大)	クライシスマネジ メント(ICS) 熊丸 由布治 (日本防災デザイン)	災害対策本部空間配置 牧 紀男 (京都大) 元谷 豊 (サイエンスクラフト)	
2月3日	災害対策本部運営訓練 近藤 伸也 (宇都宮大)		組織への適用 (マニュアル作成手法実習) 東田 光裕(防災デザイン研究会) 竹本加良子(サイエンスクラフト)		全体討論 閉校式



(地域別)

北海道（札幌）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
12月3日	地域の災害特性 札幌管区気象台	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み 松永 正大 (前全国物流 ネットワーク)	災害法体系と防災 計画 内閣府	災害対応過程と態度を学ぶ 竹本加良子 (サイエンスクラフト)	
12月4日	警報避難の枠組み 内閣府	被災者支援 内閣府	防災行政概要 内閣府	自助・共助の 取り組みの促進 内閣府	全体討論 閉校式

東北（福島）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
12月8日	防災行政概要 内閣府	地域の災害特性 仙台管区気象台	災害法体系と防災 計画 内閣府	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み 松永 正大 (前全国物流 ネットワーク)	自助・共助の 取り組みの促進 新堀 賢志 (火山防災推進機構)
12月9日	警報避難の枠組み 内閣府	被災者支援 内閣府	災害対応過程と態度を学ぶ 新堀 賢志 (火山防災推進機構)		全体討論 閉校式

北陸（新潟）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
11月17日	防災行政概要 内閣府	地域の災害特性 新潟地方気象台	災害法体系と防災 計画 内閣府	災害対応過程と態度を学ぶ 元谷 豊 (サイエンスクラフト)	
11月18日	警報避難の枠組み 内閣府	被災者支援 内閣府	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み 松永 正大 (前全国物流 ネットワーク)	自助・共助の 取り組みの促進 南部 優子 (サイエンスクラフト)	全体討論 閉校式

中部（岐阜）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
12月15日	防災行政概要 内閣府	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み 松永 正大 (前全国物流 ネットワーク)	災害法体系と 防災計画 内閣府	災害対応過程と態度を学ぶ 元谷 豊 (サイエンスクラフト)	
12月16日	地域の災害特性 名古屋地方気象台	被災者支援 内閣府	警報避難の枠組み 内閣府	自助・共助の 取り組みの促進 内閣府	全体討論 閉校式

近畿（兵庫）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
10月29日	防災行政概要 内閣府	地域の災害特性 神戸地方気象台	災害法体系と防災 計画 内閣府	災害対応過程と態度を学ぶ 竹本加良子 (サイエンスクラフト)	
10月30日	警報避難の枠組み 内閣府	被災者支援 内閣府	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み 松永 正大 (前全国物流 ネットワーク)	自助・共助の 取り組みの促進 木村 玲欧 (兵庫県立大学)	全体討論 閉校式

中国（山口）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
10月22日	防災行政概要 内閣府	警報避難の枠組み 内閣府	災害法体系と防災 計画 内閣府	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み 松永 正大 (前全国物流 ネットワーク)	自助・共助の 取り組みの促進 新堀 賢志 (火山防災推進機構)
10月23日	地域の災害特性 下関地方気象台	被災者支援 山本 晋吾 (人と防災未来 センター)	災害対応過程と態度を学ぶ 新堀 賢志 (火山防災推進機構)		全体討論・閉講

四国（徳島）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
10月14日	防災行政概要 内閣府	地域の災害特性 徳島地方気象台	災害法体系と防災 計画 内閣府	災害対応過程と態度を学ぶ 元谷 豊 (サイエンスクラフト)	
10月15日	警報避難の枠組み 内閣府	被災者支援 山本 晋吾 (人と防災未来 センター)	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み 松永 正大 (前全国物流 ネットワーク)	自助・共助の 取り組みの促進 新堀 賢志 (火山防災推進機構)	全体討論・閉講

九州（熊本）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
1月21日	防災行政概要 内閣府	災害法体系と防災 計画 内閣府	警報避難の枠組み 内閣府	災害対応過程と態度を学ぶ 元谷 豊 (サイエンスクラフト)	
1月22日	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み 松永 正大 (前全国物流 ネットワーク)	被災者支援 内閣府	地域の災害特性 熊本地方気象台	自助・共助の 取り組みの促進 内閣府	全体討論・閉講



沖縄（沖縄）					
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
11月12日	防災行政概要 内閣府	地域の災害特性 沖縄気象台	災害法体系と防災 計画 内閣府	災害対応過程と態度を学ぶ 元谷 豊 (サイエンスクラフト)	
11月13日	警報避難の枠組み 内閣府	被災者支援 山本 晋吾 (人と防災未来 センター)	交通確保・物資物流 広域応援の枠組み 松永 正大 (前全国物流 ネットワーク)	自助・共助の 取り組みの促進 内閣府	全体討論 閉校式

(フォローアップ研修)

	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	5 16:15～17:30
3月17日	事前説明 古越 武彦 (長野県) 元谷 豊 (サイエンスクラフト)	最新の災害事例 山岸 俊幸 (白馬村 社会福祉協議会)	最新の災害事例 太田 和也 (白馬村)	最新の災害事例 鎌倉 宏 (白馬村 神城堀之内地区)	資料整理 受講者
	1 09:30～10:45	2 11:00～12:15	3 13:15～14:30	4 14:45～16:00	OPツアー
3月18日	防災に関する最近 の動向 国崎 信江 (危機管理教育研究所)	災害対応ワークショップ 元谷 豊 (サイエンスクラフト)		閉講式	災害対策本部の事 例調査 長野県災害対策本部 (長野県)

参考資料 9

センター刊行物

(1) DRI 調査研究レポート (再掲)

- ・ D R I 調査研究レポート「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨に係る常総市洪水災害における災害対応の現地支援に関する報告書」Vol.34
- ・ D R I 調査研究レポート 平成 27 年度研究論文・報告集 Vol.35

(2) DRI 調査レポート (再掲)

- ・ 平成 27 年ネパール中部を震源とする地震現地調査報告 (No.42 2015 年 7 月)
- ・ 平成 27 年台風第 18 号による大雨等に係る洪水災害の現地調査報告 (No.43 2015 年 9 月)
- ・ 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨に係る洪水災害の現地調査報告 (第 2 報) (No.44 2015 年 10 月) *第 2 報より「台風第 18 号」を「関東・東北豪雨」に改題

(3) 資料室ニュース (Vol.57 ~ 59) (再掲)

(4) その他

- ・ 公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構ニュース Hem21 (Vol.51 ~ 56)
- ・ 研究レター Hem21 Opinion
 - Vol.29 平成 27 年 5 月号 (牧 紀男 震災資料研究主幹)
 - Vol.30 平成 27 年 7 月号 (林 春男 上級研究員)
 - Vol.31 平成 27 年 9 月号 (中川 大 上級研究員)
 - Vol.32 平成 27 年 11 月号 (清野 純史 上級研究員)
 - Vol.33 平成 28 年 1 月号 (小林 郁雄 上級研究員)
 - Vol.34 平成 28 年 3 月号 (矢守 克也 上級研究員)

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

平成27年度 年次報告書

